

第18回全国障害者スポーツ大会

福井しあわせ元気大会 2018

大会報告書

織りなそ
う

力と技と美しさ

はじめに

〈全国障害者スポーツ大会の意義と歩み〉

全国障害者スポーツ大会は、障がいのある選手が競技等を通じスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的に開催される国内最大の障がい者スポーツの祭典です。

全国障害者スポーツ大会は、平成13年に、これまで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」が統合され、宮城県で第1回大会が開催されました。以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックと同様に、毎年国民体育大会終了後に開催されています。

今回は、「国体と障スポの融合」がテーマに掲げられ、大会史上初めて、障スポの正式競技である車いすバスケットボールが国体会期中に実施されます。

〈福井しあわせ元気大会の概要〉

基本方針 「すべての人が支えあい

スポーツのすばらしさを未来へつなげる」

大会日程 平成30年10月13日(土)～15日(月)

会場地 福井市等9市2町

実施競技 個人競技6種目、団体競技7種目、

オープン競技3種目

参加選手団 選手 約3,500人、役員 約2,000人、

合計 約5,500人

参加自治体 47都道府県+20指定都市

〈札幌選手団の活躍〉

選手団の構成：選手 個人競技28人、団体競技34人、役員33人、合計95人

成績：13年ぶりに出場したバスケットボールを含め、62人に上る選手で臨んだ札幌選手団は、33個のメダル（金メダル5個、銀メダル19個、銅メダル9個）を獲得しました。

〈選手団の日程〉

10月11日(木)	結団式、出発
10月12日(金)	団体競技の選手団出発 各会場にて公式練習
10月13日(土)	開会式、大会1日目
10月14日(日)	大会2日目
10月15日(月)	大会3日目、閉会式
10月16日(火)	帰札、解団式

結団式 10月11日(木) 札幌市役所ロビー

団旗が浅香選手団長に授与された後、秋元市長に代わって石川スポーツ局長から、「大会に参加される皆さんには、北海道胆振東部地震の被災地でもある札幌市の代表です。これまでの練習の成果を充分に発揮され、皆さんの活躍で市民に勇気を与えていただくとともに、『札幌は元気です』ということを全国にアピールして、帰ってきてください。」と激励の挨拶がありました。最後に選手団を代表して、村田稔実選手との場典子選手の選手宣誓が行われました。



石川スポーツ局長の激励

10月13日(土) 福井県営陸上競技場(福井市)



開会式 10月13日(土)

9.98スタジアム(福井県営陸上競技場、福井市)

開会式では、抜けるような青空の下、47都道府県と20政令指定都市の選手団が順に入場しました。

式典には皇太子さまがご臨席。「この大会に参加された皆さんの中から、2年後の東京パラリンピックにおいて活躍される選手が数多く誕生することを期待しております。大会を契機として、障がい者スポーツが一層発展するとともに、障がいのある方々に対する理解がさらに広がることを希望します。」と挨拶。続いて炬火が点火されました。なお、来年5月の即位を控え、皇太子として大会の開会式に出席されるのは最後となります。



各競技の紹介

● 陸上（身体、知的） 9.98スタジアム（福井県営陸上競技場、福井市）



● 水泳（身体、知的） 敦賀市総合運動公園プール（敦賀市）



● アーチェリー（身体） 福井市スポーツ公園サッカー場（福井市）



● 卓球（身体、知的） サンドーム福井 (鯖江市)



● フライングディスク（知的） 三国運動公園 陸上競技場（坂井市）



● ボウリング (知的) スポーツプラザ WAVE40(福井市)



● バレーボール (聴覚)

大野市エキサイト広場
総合体育施設体育館
(大野市)



● サッカー (知的) 丸岡スポーツランドサッカー場、人工芝グラウンド (坂井市)



● バスケットボール (知的) ジオアリーナ(勝山市体育館、勝山市)



閉会式 10月15日(月) 9.98スタジアム(福井県営陸上競技場、福井市)

閉会式は、高円宮妃久子さまがご臨席されて、各都道府県・指定都市の選手団・観覧者ら約1万8300人が参加。熱戦を終えた選手たちが入場すると、観客席から惜しみない拍手が送られました。



西川一誠知事が次回開催地の茨城県の小野寺俊副知事に大会旗を手渡し、福井国体から引き継がれた、両大会の融合を象徴する炬火が消されました。

閉会式を含めた総参加者数は、約9万8600人に上りました。

送別セレモニー 10月15日(月) 福井県営陸上競技場、16日(火)まつや千千(福井市)



解団式 10月16日(火) 札幌市役所ロビー

団旗が浅香選手団長から石川スポーツ局長に返還された後、浅香選手団長が、「札幌市選手団総勢95名、ただ今元気に帰って参りました。選手の皆さん顔を見て、『やりきった』という顔をしていると感じていますが、この貴重な経験を大きな財産としてこの大会への参加がゴールではなく、明日からを新たなスタートの日として活躍されるよう、大いに期待しています。」と大会報

告。最後に石川スポーツ局長が、「力いっぱいプレーされ、スポーツを通じて全国の仲間たちと触れ合ったこの数日間は、大変すばらしいものであったのではないかと思います。今回の大会で得た経験を糧に、選手の皆様それぞれが夢に向かって、より一層ご活躍されることをお祈り申し上げます。」と挨拶しました。



「福井しあわせ元気大会」を振り返って



陸上選手

山田 愛実

私は、今回の全国大会で3回目の出場となりました。過去2回もたくさんの人と出会い結果も残してきましたが、今回の大会では今までよりたくさん練習に取り組めた為、一番良い結果で終わることが出来ました。目指していたメダルには手が届かず悔しい気持ちがありますが、今回の大会で修正点を見つけられたので、次回に活かしていきたいです。応援ありがとうございました。



陸上選手

佐藤 明日美

6回目の障スポに出場させていただきました。個人種目では、メダルを逃しましたが、リレーで銀メダルを獲得することができました。リレーには強い思いが個々にあり、スムーズにパスが決まってゴールした瞬間、大号泣てしまいました。“努力は必ず報われる”そう感じた大会でした。7年間陸上を続けチームで練習できたこと、札幌市選手団として出場できたこと、人の出会いに感謝しています。幸せと元気をありがとうございました。



水泳選手

横山 航也

第18回福井しあわせ元気大会に、今回初めて参加しました。これまで自分が参加してきた大会に比べ、参加者の数がとても多いことに驚きました。水泳は開会式が別会場だったため、閉会式に全選手団・役員が集まった会場では、その数に圧倒されとともに、これだけの人がつくりりあげた舞台で競技ができましたこと、そこで金メダルを得られたことを誇らしく思いました。また機会があれば参加させていただきたいと思います。



水泳選手

山岸 保輝

僕は今回、福井しあわせ元気大会に参加させて頂きました。とてもうれしかったです。9月に震災があり、思うように練習ができなかったのですが、一生懸命がんばりました。氣比神宮でお参りし、おみくじを引いた時、凶を引いてしまい落ち込みましたが、大会2日目に2種目出場し、メダルを2個とることができました。今度また出場させて頂くことができたら、もっといい色のメダルをとれるように一生懸命練習したいと思います。



アーチェリー選手

熊谷 義夫

この度、第18回福井しあわせ元気大会アーチェリー競技に出場させていただきました。アーチェリーを始めたのは、障がい者スポーツ協会開催のアーチェリー教室が始まりで、3年弱で全国的な大会に参加させていただきました。大会に出場しメダルも頂きました。今後も技術・体力向上を目指に練習してまいります。お世話いただいた福井県の皆様に感謝申し上げます。又役員・コーチの皆様おつかれ様でした。



卓球選手

石田 菜摘

学業と競技の両立の難しさに思い悩んだ時期もありましたが、家族や友達など周りの方々に支えてもらい、ここまで続けることができました。そして今回、大会にも出場でき、さまざまな地域、障害の方々と触れ合いました。同世代のボランティアの方々にもたくさんサポートしていただき、楽しく大会を終えられました。将来に向けて自分自身が成長すると共に大会で経験したことを大切にし、卓球競技を盛り上げられる人になりたいです。



卓球選手

僕は、今回福井しあわせ元気大会に初めて出場させて頂きました。初めての全国大会に緊張や戸惑いを憶えながら会場に居ました。本当に自分がいていいのかなど不安が試合時間までにつのっていき、いざ卓球台に立つとプレッシャーなどの重圧につぶされそうでした。結果は全敗しましたが、自分の課題などを知りながら楽しくプレー出来ました。こんな大きな大会に出られる機会はそんなに無いと思うので、今大会の思い出を大事にしていきたいです。



フライングディスク選手

吉田 朋子

私は、福井県で行われた全国大会のフライングディスクに参加しました。札幌より暑くてびっくりしました。10月なのに日焼けして肌が赤くなって痛かったです。大会期間中は、一緒にホテルに泊まっていた人達やボランティアさんがとても親切で、嬉しく思いました。食事も色々なものが出てきておいしかったし、温泉も良かったです。試合は、練習は上手くいきましたが、本番は緊張して良い記録を残せませんでした。でも自分なりに頑張ることができました。



ボウリング選手

中田 悠紀

今回初めて全国大会に参加しました。開会式に旗を持って行進した時はとても感動しました。ボウリングでは緊張しましたが、3回連続ストライクを出し自己記録を更新出来た事が嬉しかったです。担当ボランティアさんはとても優しく親切に接してくれて、競技以外にも色々お世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。また参加出来るように一生懸命練習したいと思います。お手伝いいただいた皆様、本当にありがとうございました。



バレーボール選手

荒木 力也

私はバレーを始めて間もないですが、進路で忙しかった時期もあり、少ない練習の中で大会に臨みました。トーナメント1回戦で昨年度優勝の愛知県と当たり、レシーブやスパイクで対抗するも、勢いを止められず、力を発揮することが出来ませんでした。悔いが残りましたが、実際に強敵とやってみて、自分なりに色々な課題を見つける事が出来ました。これからもバレーを続けて、感謝の気持ちを伝えられる選手になりたいと思っています。最後に、応援して頂いた皆様方、スタッフの皆様方、本当にありがとうございました。



サッカー選手

澤田 健努

全国障がい者スポーツ大会では、準優勝という結果に終わりました。決勝ではほぼ互角の戦いをしましたが、最後まで戦い抜くことが出来た東京が一枚上手でした。高校生活の最後の全国大会でしたが、手ごたえのある楽しい大会となりました。こんな大舞台で出来る事に大変感謝しております。皆さんのおかげでここまで成長できたことをうれしく思います。本当にありがとうございます。



高松 雄司

バスケットボール選手

今回は、初の全国大会にキャプテンとして出場しました。色々初めての事が多く、大きな会場、初めて戦うチーム、そういう不安な所が多かったです。自分たちの初戦の結果は、大差をつけられ負けてしまいました。その後交流戦を行い、計3試合行いました。この3試合をして自分達に足りない事が色々分かりました。また一から頑張って、来年も全国大会に出られるように頑張っていきたいです。

スズポの伝言板

〈第19回全国障害者スポーツ大会のお知らせ〉

「いきいき茨城ゆめ大会2019」

大 会 日 程 2019年10月12日(土)～10月14日(月・祝) 3日間

競 技 会 場 地 水戸市等10市

スローガン 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

マスコット いばラッキー

開催基本方針 ① 可能性にチャレンジし、人が輝き元気になる大会

② 「いばらきの魅力」を発信する大会

③ 変えよう 示そう わたしの力で

実 施 競 技 個人競技 6競技、団体競技 7競技、オープン競技 6競技



愛称: いばラッキー

編集後記

大会史上初めての「融合」を掲げて行われた、国内最大の障がい者スポーツの祭典が、幕を閉じました。

真摯に競技に向き合い、多くの感動を与えてくれた選手の皆さんに敬意を表します。また、強化練習から大会帯同と、選手の活躍を支えて頂いたコーチの皆様の献身に感謝を申し上げます。さらに、あたたかく送り出して頂いた家族や学校、職場など関係者の皆様にも、心からお礼を申し上げます。

障がいのある人もない人も、スポーツのすばらしさや可能性を実感することができた大会になりました。